

友達の心は金メダル

三重県 友生小学校

6年 西村 侑真

ぼくはサッカーが大好きで、チームに入って練習をがんばっています。夏休み中に2日間、大阪遠せいがあって、ぼくはその大会に行くことが決まった2ヵ月前から、ずっと楽しみにしていました。けれど、コロナのようこう接しよく者になったことで、その大会にぼくは行けなくなってしまいました。

ぼくは体調ばっちりだったので、悲しい気持ちになりました。最近、コロナのことがあるので、チーム全員がそろそろ日がむずかしくなっています。ぼくは、大会に行くのは絶対に無理なので、気持ちを切りかえました。

試合当日、チームのLINEから写真が送られてきました。みんなの写真を見ながら、試合が始まる時間まで待っていました。みんながグラウンドに入る写真がきて、試合が始まりました。その日は3試合ありました。試合中はぼくもドキドキして、想像しながら結果を待ちました。

結果は、全勝でした。試合の動画も送られてきて、ぼくがいつもしているポジションを友達が一生けん命してくれていました。その友達は、いつもとちがうポジションでがんばっていました。

1日目は1位でぬけて、2日目は1位リーグになりました。2日目も、試合の時間はすごくドキドキしました。送ってくれた写真の中の友達は、みんなあせびっしょりでした。試合の時間、ぼくは時計を見ながら、心の中で応援しました。結果は48チーム中4位でした。すごいと思いました。ぼくもみんなといっしょに試合したかった、とすごく思いました。

次の日、

「ゆうまにメダル持って帰ろうって言ってたのに……、四位。」

とLINEがきました。ぼくは、うれしかったです。そこにいないぼくのことを考えてくれて、そんな気持ちで戦ってくれていたんだと思うと、うれしかったです。メダルはないけれど、メダルのことよりも、友達の言葉がうれしかったです。友達ってやさしいなと思いました。

ぼくはずかしくて、友達にやさしい言葉をうまくかけることができません。でも、ぼくのまわりにいる友達は、いつもやさしい言葉をずっとかけてくれます。この前の試合で、ぼくがPKを止められてしまったとき、下を向いていると、「気にすんな」とか、おもしろいことを言って笑わせようとしたり、帰りの車のところまで来て、はげましてくれたりしました。

だからぼくは、次の試合のときも気にしないで自信を持って戦うことができました。ぼくも友達が下を向いているとき、はげますことができるようになりたいです。

この自宅待機が終わった次の日、みんなでサッカーしようと友達がさそってくれました。早くみんなに会って、いっしょにサッカーできる日が楽しみです。